

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 8 年度 相武台地区まちづくり会議 第 2 回全体会		
事務局 (担当課)		相武台まちづくりセンター 電話 0 4 6 - 2 5 4 - 3 7 5 5		
開催日時		令和 8 年 9 月 29 日 (火) 午後 6 時 00 分から午後 8 時 00 分まで		
開催場所		相武台公民館 2 階 大会議室		
出席者	委 員	2 0 人 (別紙のとおり)		
	その他	4 人 (アセットマネジメント推進課)、2 人 (図書館) 1 人 (人権・男女共同参画課)		
	事務局	2 人 (相武台まちづくりセンター)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	3 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 会議の傍聴 3 会長あいさつ 4 議題 (1) 地域活性化事業交付金 (相武台地区子育てマップ更新事業) の審査について (2) 人権擁護委員について (3) まちづくりを考える懇談会に向けた準備の進捗報告 (4) 要望書に対する市の検討状況について (5) 旧もえぎ台小学校跡地活用に係るワークショップについて (6) 各団体等からの依頼事項、お知らせ事項 5 その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 会議の傍聴

3 人の傍聴希望について、会議に諮り傍聴が許可された。

3 会長あいさつ

4 議題

- (1) 地域活性化事業交付金（相武台地区子育てマップ更新事業）の審査について
相武台地区民生委員児童委員協議会会長より、資料1に沿って事業説明。
特に意見等はなく、交付金申請について承認された。

(2) 人権擁護委員について

現在相武台地区で欠員となっている人権擁護委員の概要について、人権・男女共同参画課より、資料2に沿って説明。身近に適任者があれば、相武台まちづくりセンターへ連絡いただくよう依頼し、これに対する質疑等はなかった。

(3) まちづくりを考える懇談会に向けた準備の進捗報告

令和9年2月3日の懇談会開催に向け、一定メンバーでテーマ設定等準備を進めており、その中間報告について、根本委員より資料3-1に沿って説明。

⇒ 懇談テーマの大枠となる、資料3-1中のキャッチフレーズ及びテーマ案について承認され、次回全体会では、これに基づくテーマの具体策案を諮ることとなった。

(4) 要望書に対する市の検討状況について

【アセットマネジメント推進課長より説明】

(課長) 2月に受理した要望書の庁内検討状況であるが、昨年度ワークショップで頂いた図書機能及びその他（カフェ等）機能や、消防分署及び保育園として活用する方向性で検討を進めることについて、政策、麻溝台・新磯野土地区画整理事業、都市計画・開発及び建築審査関係部門と、関係法令上の条件等を確認しながら調整を進めており、関係局長の理解を得ているところである。また、C棟以外の校舎等については、令和10年度まで地域開放で利用いただいているところであるが、解体時期について調整をしているところである。こうしたことを踏まえ、市

長・副市長への説明等の調整に取り掛かる予定となっている。

【図書館より説明】

(館長) 要望書内容にあった、旧もえぎ台小学校での図書機能確保についてであるが、C棟及びその周辺敷地を活用する方向で調整を進めている。今後予定している市民ワークショップでの意見等を踏まえ、土地の形状や建築物の構造を勘案した具体的な活用方法を検討していく予定である。

●上記説明について、次の質疑があった。

(委員) 前回報告から進捗があったとの認識でよいか。

(課長) その通りである。

(委員) 消防、保育園及び図書機能と附随機能が予定されていることは認識できたが、それ以外報告事項はあるのか。

(課長) 区画整理事業区画内であるがための諸条件があるため、その点を整理しながら調整を進めている。

(委員) では、説明にあった方向性について、区画整理準備組合との協議が済めば、市としてもそのように調整を進めるとのことで局長等の理解を得ているということか。

(課長) 区画整理準備組合との協議を待つと、相当期間を要することになるため、まずは市として考える方向性を固めなければならない。そのため、消防、保育園及び図書機能（附随機能含む）としての活用の方角性をもとに、検討を深めることで良いかという点について、庁内確認をしている状況。

(5) 旧もえぎ台小学校跡地活用に係るワークショップについて

アセットマネジメント推進課長より、資料4に沿って説明。

以下の質疑等があった。

(委員) 「図書機能を核とする」という表現がある。現分館の移転先として、旧もえぎ台小学校跡地を図書機能で活用することについては認識していた。ただ、それを核としてと表現されると、思っていたイメージと違う。

(課長) 図書機能だけでなく、ワークショップで頂いたその他機能が図書機能とどのようにつながるのか、皆さんのイメージを伺う予定である。

(委員) 図書機能として活用されること自体は賛成であるが、ワークショップでは、「図書機能」と「その他」機能は同等のものとして扱っていたはずである。図書機能を核と表現されると、イメージと違う。ワークショップで出したその他機能も、図書機能に並んで必要なものとして出したと認識している。

(会長) 表現の問題であると思われるが、そうであれば核とするよりも、必須なものとして考えた方がよいかもしれない。あくまで図書機能は必須なものとして捉

え、その形や他機能との結びつき方等はワークショップにて検討するという認識でよいか。

(委員) その共通認識でよいと思う。

(会長) では、ワークショップの開催について、異議等ないか伺いたいがかが。

(一同) 異議なし。

(会長) 関係団体からの参加者推薦協力について、同意いただけるか。

(一同) 異議なし。

(会長) 公募枠については、会長及び事務局に一任いただくことでよいか。

(一同) 異議なし。

(会長) 公募について、何か意見があれば伺いたいがか。

(委員) 事業者を呼んだ方がよいのではないか。

(会長) ご意見として受け、事務局と相談のうえ検討させていただく。

(委員) 今回はワークショップに向けた準備が進んでいるため、今後のひとつのやり方としての意見であるが、中学校等の教員の方を招いて、まちづくりの検討状況を知ってもらい、それを学校へ持ち帰っていただき、地域を考えるきっかけ作りをしてもらうのも良い方策かと思う。

(6) 各団体等からの依頼事項、お知らせ事項

【相武台地域包括支援センター】

6年毎に業務委託の公募を実施している。来年度からの委託期間について、書類応募を行ったことを報告。

【相模原市青少年指導委員連絡協議会相武台地区協議会】

公民館青少年部の活動について紹介させていただく。通年で6回程度実施する「ふれあい体験クラブ」であるが、今回11回に増やした。昨年は14名程度の参加であったが、今年は26名程度まで増えた。また、こどもまつり実行委員会のメンバーを募集し、12名程度が加わり、全体で40名弱参加していただくこととなった。これからも地域活動を進めていきたいと持っている。

今年のこどもまつりは12月6日(日)午後開催予定。

5 その他

●次回まちづくり会議の予定

令和8年12月1日(火)午後6時から(場所 相武台公民館大会議室)

以 上

相武台地区まちづくり会議 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	浅田 聡	相武台地区自治会連合会	会 長	出席
2	高橋 孝雄	相武台地区社会福祉協議会	副会長	出席
3	砂村 久三子	相武台地区民生委員児童委員協議会	副会長	出席
4	宮本 憲雄	相武台公民館	副会長	出席
5	鳴島 昇	相武台地区自治会連合会	理 事	出席
6	奥野 智	相武台地区自治会連合会	理 事	出席
7	宇田 敏秋	相武台地区自治会連合会	理 事	欠席
8	桑原 勝利	南区安全・安心まちづくり推進協議会 相武台支部		出席
9	荻原 正人	相武台地区青少年育成協議会		出席
10	永井 保子	相武台公民館運営協議会		欠席
11	迫 良寛	相模原市青少年指導委員連絡協議会 相武台地区協議会		出席
12	織田 和彦	相模原市スポーツ推進委員連絡協議会 相武台地区協議会		出席
13	魚里 めぐみ	相武台小学校 P T A		出席
14	龍口 千鶴	緑台小学校 P T A		出席
15	魚津 桃	相武台中学校 P T A		出席
16	山本 雅敏	相武台こどもセンター		出席
17	堀田 典子	相模原市立相武台第3児童館		欠席
18	番匠 勉	相武台地区老人クラブ連合会		出席
19	川崎 知恵子	相武台地域包括支援センター		出席
20	溝口 興二	相武台団地商店街		欠席
21	遠藤 誠	相模原看護専門学校		出席
22	浅利 達也	相模原市消防団南方面隊第2分団		出席
23	根本 健一郎	公募委員		出席
24	笹原 砂知子	公募委員		出席
25	小池 清史	公募委員		欠席

令和8年度 相武台地区まちづくり会議(第2回全体会)

次 第

令和8年9月29日(火)

午後6時から

公民館 大会議室

1 開会

2 会議の傍聴

傍聴希望者数 名

3 会長あいさつ

4 議題

- (1) 地域活性化事業交付金(相武台地区子育てマップ更新事業)
の審査について …資料1
- (2) 人権擁護委員について(人権・男女共同参画課) …資料2
- (3) まちづくりを考える懇談会に向けた準備の進捗報告 …資料3-1・3-2
- (4) 要望書に対する市の検討状況について
(アセットマネジメント推進課・図書館)
- (5) 旧もえぎ台小学校跡地活用に係るワークショップについて …資料4
(アセットマネジメント推進課)
- (6) 各団体等からの依頼事項、お知らせ事項

5 その他

- (1) 今後のまちづくり会議の開催予定 ※ 第4回以降は今後設定
第3回全体会 12月1日(火)午後6時から 大会議室
- (2) まちづくりを考える懇談会の開催予定
令和9年2月3日(水)午後6時から 大会議室

出席者	☐ 浅田 ☐ 高橋 ☐ 砂村 ☐ 宮本 ☐ 鳴島 ☐ 奥野 ☐ 宇田
	☐ 桑原 ☐ 荻原 ☐ 永井 ☐ 迫 ☐ 織田 ☐ 魚里 ☐ 龍口 ☐ 魚津
	☐ 山本 ☐ 堀田 ☐ 番匠 ☐ 川崎 ☐ 溝口 ☐ 遠藤 ☐ 浅利
	☐ 根本 ☐ 笹原 ☐ 小池

地域活性化事業計画書

○申請者

団体名 相武台地区民生委員児童委員協議会

代表者の役職及び氏名 会長 砂村 久三子

代表者の住所又は所在地 相模原市南区新磯野 4-1-3 (相武台まちづくりセンター内)

担当者連絡先 担当：高森 文 電話：046-204-8010 Fax：046-251-5362

○事業名（事業の名称を記載してください。）

相武台地区子育てマップ作成事業

○事業実施の背景や地域の現状と課題（地域で困っていることや活性化が必要なことなど、事業を実施することとなった背景事情を記述してください。）

相武台地区は、座間市・キャンプ座間に隣接し、相武台前駅周辺の商業地と大規模集合住宅を中心に形成された人口密度の高い地域である。自治会加入率が市内でも高く、住民主体の防犯・防災・福祉活動が活発に行われている一方、少子高齢化の進行や団地の空室増加、商店街の利用減少など地域コミュニティの弱体化が課題となっている。また、前回「子育てマップ」を作成した令和3年度より小学校の生徒数が900人から700人と約2割減少し、令和8年3月にはもえぎ台小学校が閉校するなど地域の少子化も進んでいる。当地区としては減少している子育て世代にとって少しでも「子育てがしやすい環境」となるよう、医療機関、相談窓口、子育てサロン等の交流機会の紹介等子育てをするにあたって役立つ情報を発信・提供していくことが必要であると考え、従前から「子育てマップ」を地区内の施設等に配架をしている。前回の「子育てマップ」作成から5年が経過しており、新しい情報への更新や子どもや保護者の居場所作りの必要性がある。また、子育て家庭の孤立防止や利便性向上に努めるとともに、地域の活性化を高める仕組みづくりが求められている。

○事業の目的（事業の実施により達成しようとする目的を記述してください。）

高齢化が進む当地区内では高齢者向けの事業等は充実しているが、子育て世代に対しての情報発信が乏しく、児童の見守り等の強化を図るとともに、地域に点在する子育て関連情報を一体的に整理・可視化した「子育てマップ」を作成・発信することで、子育て世代の利便性向上と地域資源の活用促進を図り子育てしやすい環境づくりを支援・推進することを目的とする。

○事業内容（当該事業の具体的な内容を記述してください。）

- ・子育てマップの作成及び発行 A3 カラー 8部割 2,000部
- ・子育て世帯へ配布と地域医療機関等に配架
- ・子育てマップの情報が当協議会のホームページと連携できるQRコードを掲載する

○事業スケジュール（実施の時期と内容を記入してください。）

実施時期	実施内容	備考
令和8年 8月	編集会議の立ち上げ（事業計画など）	
9月	まちづくり会議にて交付金申請について審議	
9月 ～11月	子育てマップの編集会議（数回）	
12月	印刷業者へ依頼	
令和9年 3月	子育てマップの完成・配布	

○次年度以降の事業計画及び事業展望（次年度以降の事業計画、事業の拡大、他の地域や他団体への広がりなどを記述してください。）

定期的な情報の見直しを図り、内容の充実、配布先の拡大などを検討していく。

子育てマップの情報を当協議会のホームページと連携できるQRコードを載せ、子育て世代がデバイスから情報を取得できるように工夫していく。

さらに地域拠点ひだまり相武台で行っている世代交流を目的にしたイベントの紹介を追加掲示し、地域の活性化につなげていく。

○総事業費

・予算総額： 190,000円 ・(内交付金申請見込額)： 180,000円

○事業実施の背景や地域の現状と課題をどのように捉えたか（当該事業の実施が必要な状況の発生源にチェックしてください。複数回答可能。）

☐ 自己認識（自分でそう感じている）

■ 話し合い（地域の複数人がそう感じている。）

■ 調査（アンケート調査や聞き取り調査を行った。）

■ 先進事例（他地域や他市町村等で取り組まれている。）

■ 社会的課題（ニュースや新聞等で話題になっている。）

☐ その他（内容： ）

検討経過や調査、研究の内容、先進事例などの具体的内容：

○交付金の対象事業（交付金の対象となる事業のうち、どの項目に該当すると考えているかチェックしてください。）

☐ 地域の防災・防犯に関する事業

■ 地域の保健・健康づくりの増進に関する事業

■ 地域福祉の増進に関する事業

☐ 産業や観光の振興に関する事業

☐ 環境の保護・保全に関する事業

■ 青少年の健全育成に関する事業

☐ 地域の文化・伝統の振興に関する事業

☐ 生涯学習に関する事業

■ 地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業

☐ 区が推進する重点事業

☐ その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

○事業の状況（新規事業か既存事業のリニューアルかチェックしてください。）

☐ 新規 ■ 既存 ☐ 既存事業の拡大

過去の地域活性化事業交付金の交付状況： ■ 有（交付年度令和3年）・ ☐ 無

他の市の補助制度の交付状況： ☐ 有（交付年度 年）・ ■ 無

民生委員児童委員協議会の役員と主任児童委員が主となり編集会議を立ち上げ、「相武台地区子育てマップ」を作成・編集する。

相模原市 人権擁護委員の活動について

1. 人権擁護委員とは？

- 地域の人権を守り、安心できる社会づくりに貢献する民間ボランティアです。
- 市議会の同意を得たうえで市町村長が推薦し、法務大臣から委嘱されます。（定員：相模原市 32 名）

2. 任期・報酬・年齢制限

- 任期：令和 9 年 7 月 1 日～令和 12 年 6 月 30 日（3 年間） ※次回推薦における任期
- 3 年目に継続意向確認あり。
- 報酬はありません（活動に応じて交通費等の経費は支給）。
- 候補者の年齢制限

人権擁護委員活動の活性化を図る観点から、次のとおり運用基準が定められています。

なお、候補者の適性等によっては制限を妨げないこととしています。

新任の候補者 6 8 歳以下の者

再任の候補者 7 5 歳未満の者

3. 主な職務

- 自由人権思想の啓発・宣伝
- 民間における人権擁護運動の促進
- 人権侵害の調査・救済・関係機関への報告・勧告
- 貧困者への訴訟援助など適切な救済措置
- その他人権擁護に関連する活動

4. 活動内容

（1）人権相談（令和 6 年相談実績含む）

区分	相談場所や時間	相談方法	担当体制	年間相談回数（目安）	令和 6 年実績（相談件数）
特設相談	各区市民相談室・津久井まちづくりセンター 月 1 回 13:30～16:00	面接または電話	2 名当番制	3～4 回	延べ 50 人の委員が 10 件対応（電話 5・面接 5）
常設相談	法務局相模原支局 毎週木曜 午前 9:00～16:00	面接または電話	1 名当番制	2 回	延べ 96 人の委員が 10 件対応

区分	相談場所や時間	相談方法	担当体制	年間相談回数（目安）	令和 6 年実績（相談件数）
横浜地方 法務局で の相談	横浜地方法務局 平日シフト制 (9～16 時または 10～17 時)	電話	2 名当番制	2 回	法務局職員と 連携して対応

- 新委員の 1 年目は常設相談のみ相談当番免除
- 人権相談の当番日程は、人権擁護委員協議会事務局から年間スケジュールとして提示されます。
- スケジュール調整は通常事務局長が行うので、事前に予定をお伝えいただければ調整できますし、急遽都合が合わなくなった場合にも対応可能（代替委員との変更）です。

（２）人権啓発活動

- 地域イベント（市民桜まつり等）への参加
- 人権啓発講演会
- 小中学校での人権教室、人権の花活動
- ホームタウンチームとの連携啓発

※都合がつく方に参加していただいています

（３）協議会活動等

- 相模原人権擁護委員協議会の総会・研修（５月）
- 神奈川県人権擁護委員連合会の総会・研修（７月）※役員のみ
- 事務局運営補助など（啓発品の封入など）

５．活動拠点

- 相模原人権擁護委員協議会（相模原地方合同庁舎内）
〒252-0231 相模原市中央区富士見 6-10-10
- 横浜地方法務局（人権相談のみ）
〒231-0005 横浜市中区北仲通 5-57 横浜第 2 合同庁舎

以 上

はじめに

まちづくりを考える懇談会の準備会（まち懇準備会）では、これまでの相武台地区まちづくり懇談会で議論された内容を振り返るとともに、住民・事業者へのアンケート、人口動向や地域資源の整理を通じて、地域の現状と将来について検討してきました。

その結果、緑豊かな住環境や暮らしやすさ、人と人とのつながりなど、多くの魅力が改めて確認された一方、高齢化や人口構成の変化など、将来を見据えて今から向き合うべき課題について改めて認識をしました。

本資料では、これまでの議論・調査結果を基にした、まち懇準備会での議論を踏まえ、今年度のまちづくり懇談会で市長・行政と議論を深めたい方向性について確認をしたいと思います。

・本日の全体会で合意したいこと

①キャッチフレーズ：この先も楽しめる“まち”相武台

②目指す方向性：4つのテーマ

検討の積み重ね



※1：わが街_相武台 50 周年記念誌、まち懇過去資料など確認

※2：令和 7 年度開催_相武台地区市民ワークショップ結果など確認

※3：令和 8 年度 8 月_相武台商店会、GP 商店会、団地商店会、フレサ、クリエイトへのアンケート実施

※4：行政公開資料など確認

※1～5 に関して 7/16、8/5、24、9/2 準備会開催

現在地：相武台の良さと、これからの変化と可能性

現在の相武台の魅力を起点に、将来の変化と可能性を整理

相武台の良さ

- 緑が多く、静かで暮らしやすい住環境
- 公園・図書館・学校・商店など身近な地域資源
- 比較的平坦で、日常生活を送りやすい地形
- 穏やかな人柄と、地域活動・助け合いの土台
- 子ども・子育て世帯を支える生活環境

これからの変化と可能性

- 団地を中心に進む高齢化
⇒超高齢化社会モデル地区としての可能性
- 戸建て地域で進みつつある世代交代
⇒新たな地域活動の担い手への期待
- 外出機会の減少や、孤立への不安
⇒取組により交流機会を増やし孤立しないまちへ
- 地域活動を支える担い手の不足
⇒新たな参加の仕組み作り
- 地域資源が点在し、活かし切れていない状況
⇒地域資源を活かすための諸施策で活かしきる

地域の見え方

課題が多い地域	ではなく	豊かな資源を持ちながら、変化への備えが必要な地域
高齢化だけの問題	ではなく	現在の高齢者と、将来高齢になるすべての世代の問題
新しい施設の不足	だけでなく	今ある資源のつながりと、利用しやすさの問題

相武台の良さを守りながら、人口構成の変化を地域の未来づくりへつなげる

現在地から考えるこれからの相武台のキャッチフレーズ（案）

この先も楽しめる“まち” 相武台

人生の最後まで安心して暮らし続け、楽しむことができるまち

高齢化は避けることのできない社会変化です。

しかし、それを弱みとして捉えるのではなく、誰もが高齢になっても安心して暮らせる地域を、相武台から形にする機会と考えます。

相武台団地では高齢化率が 50%を超えるエリアもあります。

しかし、私たちはこれを地域の弱みではなく、これからの日本が直面する超高齢社会への先行モデルをつくる機会と捉えています。高齢者が元気に外出し、人とつながり、暮らしを楽しめるまちは、若い世代にとっても将来への安心感となり、地域への愛着や「住み続けたい」「住んでみたい」という思いにつながります。

高齢者が安心して
暮らしを楽しめる



若い世代も
将来に安心を持てる



地域への愛着と
定住意識が高まる



地域の魅力・価値が
維持向上する

実現の基本姿勢

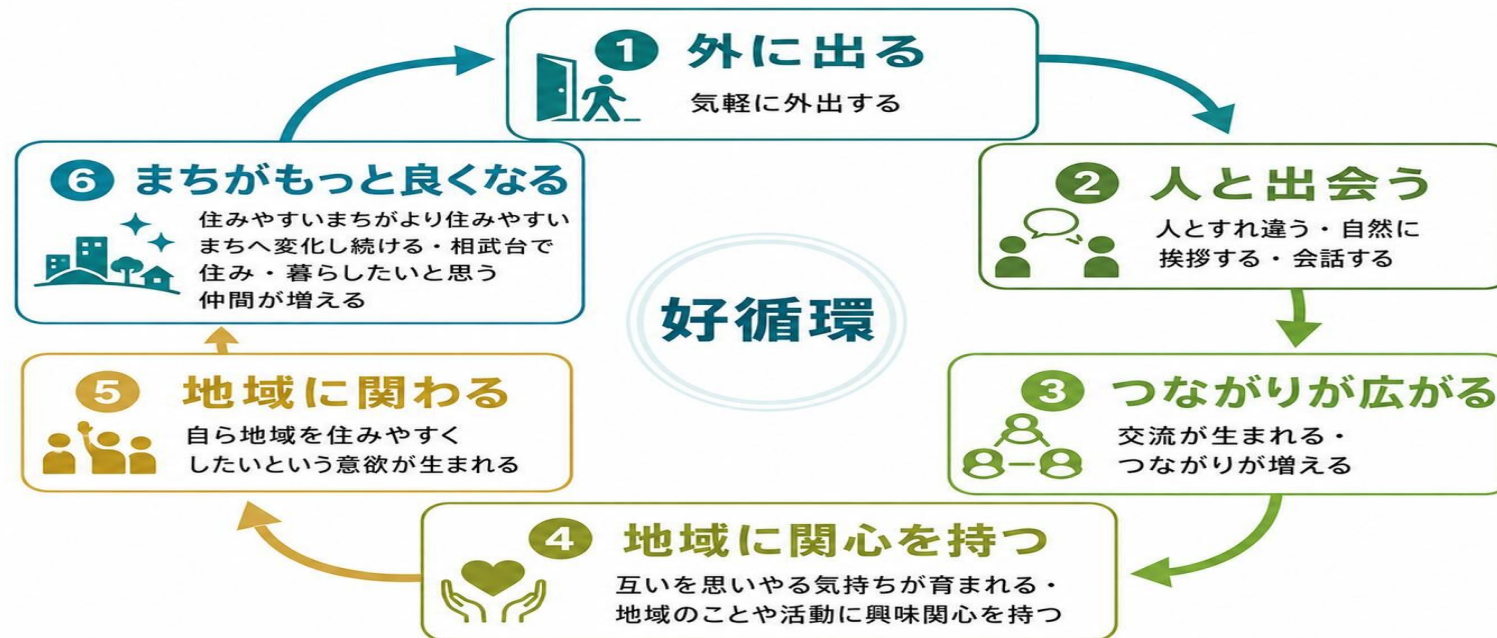
今あるものを
つなぎ直す

新しい施設を増やすことだけを目指すではありません

- 公園・図書館・商店・自治会館・団地・地域行事をつなぐ
- 歩きやすさ、休憩できる場所、立ち寄れる場所をつなぐ
- 人と人、人と地域資源が自然につながる日常の動線をつくる

暮らしやすさの向上が、相武台全体の魅力と地域価値を高める好循環を目指します

相武台のまちづくりの好循環



本日の会議で確認・合意したい4つのテーマ

具体策を決める前に、まず目指す方向性について共通認識を持ちたい

1	人が自然につながる 居場所づくり	公園、図書館、自治会館、商店などを活かし、予約や目的がなくても、子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れる場を考えます。
2	外出しやすく、 歩きたくなる環境づくり	歩道の使いやすさ、途中で休憩・会話ができるベンチ、シニアカーを含む移動のしやすさなど、外へ出るきっかけとなる環境を考えます。
3	地域資源をつなぐ 仕組みづくり	点在する公園、図書館、商店、学校、団地、地域活動を、情報と人の動きで結び、地域全体を回遊・交流できるつながりへ育てます。
4	市民・事業者・行政の 協働による実現	地域が自ら取り組むこと、事業者が協力できること、行政に期待する支援を整理し、それぞれの強みを持ち寄って進めます。

ありがたい姿、まちづくりを進める心構え

行政にお願いする
「陳情型」のまちづくり



地域も主体となり、ともに創る
「市民協働型」のまちづくり

地域が出来る事：イベント企画、情報発信、見守り、居場所づくり 他

行政に期待する事：制度設計（含む規制改革）、補助・交付、公共空間活用、関係部署間調整 他

今後の予定

日時・会場	会議	内容・備考
12月1日 18:00～ @公民館	第三回 全体会	本日の会議結果を受けた テーマの具体策の提案・合意
2月3日 18:00～ @公民館	相武台地区 まちづくり懇談会	市長、市幹部参加

この先も楽しめるまち 相武台

令和8年度 相武台地区まちづくり懇談会

テーマ検討 別冊参考資料

本編で示した方向性について、検討の根拠、地域の声、基礎情報、今後の取組候補を整理した資料です。

本別冊の位置づけ

役割	内容
根拠を示す	過去資料、住民・事業者の声、人口・地理・地域資源等を整理する。
質問に備える	全体会や行政との懇談で確認が必要となる背景情報をまとめる。
次につなげる	方向性合意後に、具体策を検討するための取組候補を保持する。

相武台地区まちづくり懇談会準備会

1. 検討の目的と経緯

本編の方向性は、過去の蓄積と地域の声を踏まえて整理しました

相武台地区まちづくり懇談会準備会では、これまでのまちづくり懇談会で議論されてきた内容を振り返るとともに、住民や事業者の意見、人口動向、地域資源等の基礎情報を整理しながら、今後の相武台地区のまちづくりについて検討を進めてきました。

本資料は、その検討過程で収集・整理した基礎情報と準備会での主な議論を、本編「この先も楽しめるまち 相武台」の背景資料として取りまとめたものです。全体会での方向性確認後は、市長・行政との懇談や具体的な取組を検討する際の基礎資料として活用することを想定しています。

本編は「何を指すか」を共有する資料、本別冊は「なぜその方向を目指すのか」を説明する資料です。

検討の積み重ね

段階	主な資料・取組	確認した内容
過去の振り返り	「わが街 相武台」50周年記念誌、過去のまち懇資料	地域の歩み、過去の提案、継続している論点
住民視点	令和7年度相武台地区市民ワークショップ等	地域の良さ、生活上の課題、将来への期待
事業者視点	商店会・事業者へのアンケート	商業上の課題、地域との連携意向、参加条件
基礎情報	人口、地理、施設、行政公開資料	高齢化、世帯構成、生活圏、地域資源
準備会検討	7月16日、8月5日、8月24日、9月2日	ビジョン、重点論点、協働の進め方
本編への集約	方向性確認資料	全体会で確認・合意したい方向性

2. 相武台地区の魅力と地域資源

課題に先立ち、守り、活かしたい地域の財産を確認します

住民・事業者の声を整理すると、相武台には緑が多く静かな住環境、身近な公園や図書館、学校、児童館、商店、人と人とのつながりなど、暮らしを支える多くの資源があることが確認できました。これらは単なる施設や環境ではなく、外出、健康、学び、交流、安心を生み出す地域の財産です。

分野	確認された良さ	将来に活かせる価値
緑・自然	緑が多い。公園、プレイロット、グリーンパーク等がある。	散歩、健康づくり、子どもの遊び、交流の基盤
住環境	静かな住宅地で、比較的平坦で暮らしやすい。	高齢者から子育て世帯まで、長く暮らせる環境
子育て・学び	学校、児童館、図書館等が身近にある。	子どもの育ち、学び、若い世代の定着
人・地域活動	穏やかな人柄、祭り、自治会活動、助け合いの土台がある。	共助、市民協働、地域参加の基盤
商店・生活利便	身近な商店や日常生活を支える店舗がある。	買物、立ち寄り、交流、地域経済の接点

「ある」だけでなく、「つながる」資源へ

相武台には多様な地域資源がありますが、それぞれが点として存在し、人の動きや情報、活動とのつながりが十分でない場面もあります。準備会では、新しい施設を増やすことだけを求めるのではなく、既存の施設、空間、活動、商業を結び直すことが、相武台らしい取組になると考えました。

基本姿勢 「新しく造る」だけでなく、「今あるものをつなぎ直す」

3. 人口構成・地理・生活圏から見た変化

地域ごとの違いを踏まえ、地区全体の将来課題として捉えます

相武台地区では、団地エリアと戸建てエリアで人口構成の変化が異なります。団地エリアでは高齢化が進む一方、戸建てエリアでは住宅の建替えなどに伴う世代交代も見られます。準備会では、この違いを無視して「相武台全体が一様に高齢化している」と捉えるのではなく、地域特性を理解した上で、将来はすべての世代に関わるテーマとして整理しました。

地域・視点	見られる変化	検討上の意味
団地エリア	高齢化の進行。外出機会、見守り、孤立、空間活用への対応が必要。	超高齢社会に先行して向き合う地区として、暮らし続けられる仕組みを考える。
戸建てエリア	住宅の建替え等による世代交代、新しい住民の流入。	新しい住民との接点をつくり、参加や担い手につなげる。
地区全体	現在の差はあっても、将来は誰もが高齢になる。	高齢者だけの問題ではなく、すべての世代の将来の安心として考える。
地理・生活圏	比較的平坦だが、駅や生活拠点から距離のある区域がある。生活圏は座間市側にもまたがる。	歩きやすさ、休憩、移動支援、市境を越えた商業・交流の視点が必要。

課題ではなく、先行モデルをつくる機会へ

高齢化は避けることのできない社会変化です。一方で、高齢になっても外出し、人とつながり、暮らしを楽しめる地域を相武台から形にできれば、現在の高齢者だけでなく、若い世代にとっても将来への安心につながります。準備会では、相武台を「超高齢社会への先行モデル」を考える地域として捉える方向性を共有しました。

数値を正式資料へ掲載する際は、出典、基準日および最新値を確認します。

4. 地域に関わる方々の声から見たこと

良さを守りながら、交流、移動、参加の入口を増やすことが共通課題です

住民・事業者の声からは、現在の相武台の暮らしやすさや人のつながりを評価する意見とともに、若者・高齢者の居場所、外出や移動、商店・飲食店、情報発信、地域参加等に関する課題が示されました。これらを整理すると、個別の施設や事業の不足だけでなく、「参加したい人、協力したい人、既存の地域資源が十分につながっていない」という共通課題が見えてきます。

論点	主な声・状況	方向性への示唆
交流・居場所	気軽に立ち寄れる場所、若者・高齢者の居場所が少ない。	予約や明確な目的がなくても滞在できる場を考える。
移動・外出	外出途中で休む場所が少ない。交通弱者への配慮が必要。	歩きやすさ、ベンチ、移動支援を一体で考える。
若者・子ども	学習・活動の場、地域との接点が少ない。	学び、活動、発信を地域参加の入口にする。
商業・にぎわい	商店・飲食店の減少、空き店舗、交流イベントへの期待。	商業と交流を結び、市境を越えた生活圏も意識する。
情報・参加	活動が見えにくい。何をすればよいか分からない。	紙と SNS を併用し、役割、窓口、参加方法を示す。

事業者との協働に向けた示唆

事業者からは、地域への協力意向がある一方、「指示やリーダーがあれば協力できる」「何をしてよいか分からない」という趣旨の声が示されています。協力を呼びかけるだけでなく、具体的な役割、窓口、参加方法を分かりやすく示すことが、実際の参加につながると考えます。

5. 「この先も楽しめるまち 相武台」に至った考え方

高齢者の安心を、若い世代の安心と地域価値へつなげます

この先も楽しめるまち 相武台
人生の最後まで安心して暮らし続け、楽しむことができるまち

準備会では、高齢化を単なる地域の弱みとして捉えるのではなく、誰もが人生の最後まで安心して暮らせるまちを考えるきっかけと捉え直しました。現在の高齢者が元気に外出し、人とつながり、暮らしを楽しむことは、若い世代にとっても、自分や家族が将来この地域で暮らし続けられるという安心につながります。

その安心は、「このまちで暮らし続けたい」「このまちに住んでみたい」という思いを育て、地域への愛着や定住意識を高めます。住みやすく、安心でき、地域活動が行われているまちを維持することが、結果として相武台の魅力と地域価値の維持向上につながると考えます。

起点	生まれる変化	目指す効果
高齢者が安心して暮らしを楽しむ	若い世代も将来に安心を持てる	世代を超えて住み続けられる地域
人が外へ出て、出会い、つながる	地域への関心と参加が生まれる	支え合いと地域活動の広がり
暮らしやすさを地域で高める	愛着と定住意識が高まる	地域の魅力と価値の維持向上

小さな外出から始まる好循環



6. 今後の具体化に向けた取組候補

以下は現時点の検討候補であり、実施を決定したものではありません

本編では、具体策を決め切るのではなく、目指す方向性について共通認識を持つことを優先しています。一方、準備会や基礎資料では、方向性を実現するための複数の取組アイデアが挙げられました。今後は、期待する効果、実施主体、制度、費用、管理、安全性等を確認しながら、実現可能性を検討します。

目指す効果	取組アイデア	活用する資源	主な検討事項
外出しやすくする	ベンチ、休憩場所、歩道の使いやすさ	歩道、公園、商店前等	設置場所、管理、安全、道路条件
移動しやすくする	シニアカー等が利用しやすい環境、移動支援	道路、歩道、交通・福祉制度	幅員、段差、植栽、交通安全、運営主体
気軽に立ち寄れる	日常的な居場所、交流スペース	図書館、公民館、自治会館、店舗	予約、料金、開放時間、管理運営
若い世代が関わる	学習・活動・コワーキング機能	図書館、公共施設、空き店舗	Wi-Fi、利用ルール、運営主体
商業と交流を結ぶ	マルシェ、週末店舗、小規模イベント	商店街、公園、公共空間	出店、許認可、天候、継続性
公園を活かす	プレイパーク、健康・交流活動	公園、プレイロット	安全、管理、担い手
情報を届ける	SNS と紙媒体の併用、地域情報の整理	自治会、店舗、公共施設	発信主体、更新方法、対象世代
団地を地域拠点にする	交流室、空きスペース活用、見守り	団地内施設、公園、空間	管理者調整、運営、継続性

具体策は目的ではありません。「外出し、人とつながり、暮らしを楽しめるまち」を実現するための手段として検討します。

7. 点在する地域資源を、暮らしの動線でつなぐ

施設を結ぶだけでなく、歩く、休む、立ち寄る、出会うという体験をつなぎます

相武台には、駅・商店、まちづくりセンター、図書館・図書機能、公園・グリーンパーク、団地等の地域資源が点在しています。準備会では、これらを個々の場所として見るのではなく、人の移動、休憩、交流、情報取得の動線として結ぶ「交流回廊」の考え方を取り上げました。



交流回廊でつなぎたい体験

場面	つなぎたい体験	例
移動する	無理なく歩ける、途中で休める	歩道の使いやすさ、ベンチ、移動支援
立ち寄る	予約や目的がなくても滞在できる	商店、公園、図書館、交流スペース
出会う	あいさつや会話が自然に生まれる	休憩場所、小規模イベント、地域活動
知る・参加する	地域情報に触れ、参加の入口を見つける	掲示、紙媒体、SNS、相談窓口

交流回廊は、特定の施設整備を意味するものではありません。既存資源の使い方、歩行・移動環境、情報発信、活動を一体として捉え、人と人、人と地域資源のつながりを育てる考え方です。

8. 陳情型から、市民協働型のまちづくりへ

地域も主体となり、それぞれの強みを持ち寄ります

これまでのまちづくり懇談では、市に要望を伝える陳情型のやり取りになりやすい面がありました。今回の検討では、地域が自ら取り組むこと、事業者が協力できること、市に期待する支援を整理し、行政をパートナーとして巻き込む市民協働型のまちづくりを目指します。

行政にお願いするまちづくり → 地域も主体となり、ともに創るまちづくり			
領域	地域・住民・団体	事業者	行政に期待する連携
居場所・交流	ニーズ把握、企画、参加、運営	場所、サービス、協力	公共施設活用、制度、関係部署調整
移動・外出	実態把握、見守り、利用者の声	移動サービス等との連携	道路、交通、福祉施策の調整
公園・施設	活用案、活動、管理への協力	イベント、協賛、サービス	用途、安全、管理ルールの調整
商業・イベント	参加、ボランティア、情報共有	出店、企画、商店間連携	広報、許認可、後援等
情報発信	地域情報の収集、紙・SNS での発信	店舗・事業情報の提供	市広報、公共媒体との接続

協働を機能させるために

- 「誰かがやる」ではなく、それぞれが無理のない範囲で役割を持つ。
- 協力を求める際は、役割、窓口、参加方法を具体的に示す。
- 行政には、個別要望への対応だけでなく、制度、公共空間、関係部署間調整での支援を求める。
- 小さな試行を通じて、継続できる主体と仕組みを育てる。

9. 方向性の共有から、地域への定着へ

小さく試し、学び、連携を広げながら具体化します

本別冊に示した取組候補は、すべてを一度に実施するための事業一覧ではありません。まず本編で示した方向性を共有し、その後、実現可能なものから小さく試し、効果と課題を確認しながら協働の仕組みを育てていくことを想定しています。

段階	考え方	主な取組例	確認すること
1 方向性を共有する	目指す姿と重点論点を共有する。	全体会での確認、市長・行政との懇談	共通認識、行政との対話テーマ
2 知る・つながる	資源、ニーズ、担い手をより具体的に把握する。	資源マップ、現地確認、ヒアリング	利用者ニーズ、協力主体、制度条件
3 小さく試す	実施可能なものから試行する。	小規模交流、歩行調査、ベンチ等の実証	効果、安全、管理、継続性
4 連携を広げる	事業者・行政との役割を具体化する。	商店連携、公共施設活用、情報発信	役割分担、費用、許認可、運営
5 地域に定着させる	継続できる運営へ移行する。	担い手育成、複数拠点、情報循環	持続性、参加の広がり、見直し

最終的に目指すのは、個別施策の実施ではなく、「この先も楽しめるまち 相武台」を地域全体で育て続けることです。

資料の取扱いと参照資料

本別冊は方向性検討の基礎資料です

留意事項

- 本資料に記載した取組アイデアは、現時点における検討候補であり、実施を決定したものではありません。
- 今後、全体会での方向性確認、市長・行政との懇談、関係者との協議、制度・費用・管理・安全面等の確認を経て具体化を検討します。
- 人口、世帯、高齢化率等の数値を正式資料へ使用する際は、出典、基準日および最新値を確認します。
- 住民・事業者の意見は、確認できた意見の傾向を整理したものであり、地域全体の意見を統計的に代表するものではありません。
- 本資料は、本編「令和８年度 相武台地区まちづくり懇談会 テーマ検討（案）」と合わせて参照します。

主な参照資料

資料区分	資料名・内容	本別冊での位置づけ
過去資料	「わが街 相武台」50 周年記念誌、過去のまちづくり懇談会資料	地域の歩み、過去テーマ、継続課題
住民視点	令和７年度相武台地区市民ワークショップ結果等	相武台の良さ、生活課題、将来への期待
事業者視点	相武台商店会、GP 商店会、団地商店会、事業者へのアンケート	商業、地域連携、協力意向
行政・基礎情報	人口、地理、施設、市公開資料等	人口構成、生活圏、地域資源、市政策との関係
準備会記録	令和８年度まち懇準備会資料・打合せ結果	ビジョン、重点論点、協働の考え方
本編	令和８年度 相武台地区まちづくり懇談会 テーマ検討（案）	全体会で確認・合意したい方向性

以上

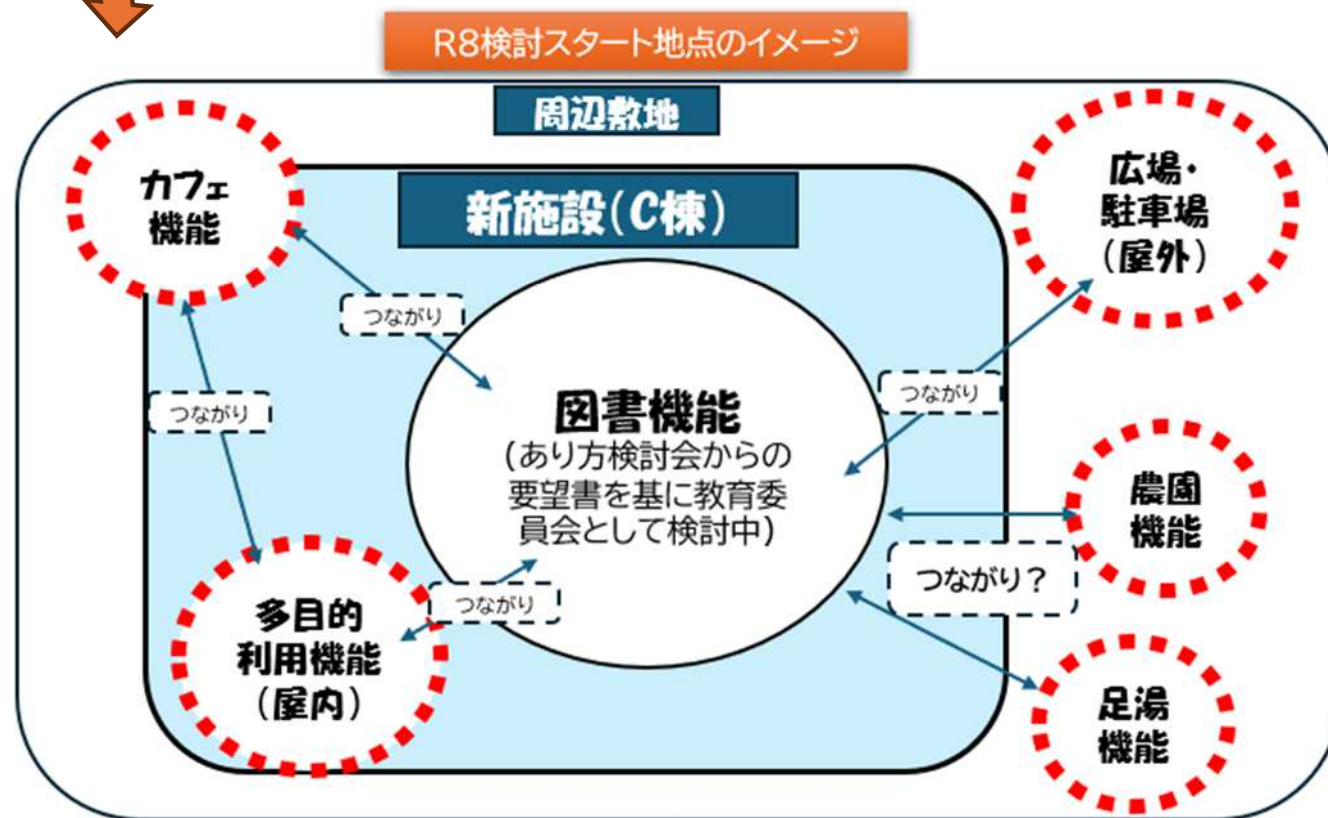
旧もえぎ台小学校の跡地活用について (令和8年度市民ワークショップ)

議題

- 1 __ 昨年度ワークショップの振り返り
- 2 __ 開催回数・時期について
- 3 __ 本年度の検討テーマについて
- 4 __ 参加者について

1. 令和7年度ワークショップの振り返り

昨年度は、もえぎ台小学校閉校後の跡地の主に“C棟(おもいで館)とその周辺の敷地”について、地域課題の解決に資する活用に繋げるための、**主な土地利用(活用方法)について**検討いただきました。



2.【案】開催回数・時期 について

前回のまちづくり会議でお諮りした、本年度の市民ワークショップにつきまして、まちづくり懇談会の準備等と時期をずらしての開催を想定しています。

①開催回数(案)

全3回（検討状況に応じて、適宜、調整します。）

②開催日程(案) →会場・東京都立大学と調整し、以下の日程を想定しています。 いずれも、土曜日のAM9:00～12:00の時間帯です。

1回目→12月5日 、 2回目→1月23日 、 3回目→2月20日



3.【案】本年度の検討テーマについて

今年度は、昨年度に検討いただいた主な土地利用(活用方法)をもとに、将来の整備構想・計画に繋がる、より具体的な使い方のイメージを整理していく予定です。

N O.	整理したい事項（テーマ）	備考（検討の視点“例”など）
0	（図書機能の内容と必要な諸室は？）	●（あり方検討会からのR7要望書を受け、市教育委員会として整理中。本年度WSでは、図書機能の移転を前提とする。）
1	図書館や小学校について、思い出やエピソードを語る	●図書館を利用したエピソードと、利用しなかった理由を語る。 小学校に関わるエピソードを語る。 ☞施設のテーマ・ビジョン・コンセプト・スローガンになる。 ●本当に必要な機能がなんなのか、リアルな経験から考えられる。
2	“その他の機能”毎に必要な、諸室・スペース・位置関係は？	●施設（+aと図書）の利用者の想定は。（ターゲット層） ●+a機能が、室内である必要があるか？空間が必要か？ ●機能同士の隣接が好ましいペアは。 ●諸室・スペースの配置及び動線は。 ●砂場・樹木等で残すものはあるか。
3	“その他の機能”毎の適切な、運営主体は？	●公共施設として設置が可能か。 ●民間事業者による運営が想定できるか。 ●“運営”に地域が主体性をもって参画・協力できるか。

3
回に分けて段階的に
より具体的な内容を検討

○内容はファシリテーター等を委託する、東京都立大学と調整中のものであり、変更となる可能性があります。

4.【案】参加者について

検討の継続性を保つため、昨年度と同様に、関連団体からの推薦等でのご参加を想定しています。

加えて、10年以上先の施設について検討するため、学生等の若者も含めた参加者を募って開催することを想定しています。

【参加者構成（案）】

- 全体人数は40名を上限とする。
- 団体推薦（18名程）
- 団体推薦以外 学生含（12～22名程）

団体推薦以外 例

- ◎中学・高校・大学・専門学校生徒
- ◎地区内自治会長
- ◎おはなし会参加者
- ◎南区内の社会人
- ◎その他

“参考 R7”

No. [↩]	所属団体等 [↩]
1 [↩]	相武台地区自治会連合会会長 [↩]
2 [↩]	相武台地区自治会連合会副会長 [↩]
3 [↩]	相武台地区自治会連合会副会長 [↩]
4 [↩]	相武台地区社会福祉協議会会長 [↩]
5 [↩]	まちづくり会議公募委員 [↩]
6 [↩]	まちづくり会議公募委員 [↩]
7 [↩]	まちづくり会議公募委員 [↩]
8 [↩]	相武台地区民生委員児童委員協議会会長 [↩]
9 [↩]	相武台公民館 館長 [↩]
10 [↩]	相武台公民館運営協議会 委員 [↩]
11 [↩]	<u>もえぎ</u> 台小学校避難所運営協議会会長 [↩]
12 [↩]	相武台地区青少年育成協議会会長 [↩]
13 [↩]	おはなしバスケット [↩]
14 [↩]	はしばみの会 [↩]
15 [↩]	相武台小学校 PTA [↩]
16 [↩]	緑台小学校 PTA 11/15 参加 [↩]
17 [↩]	緑台小学校 PTA 11/29 参加 [↩]
18 [↩]	<u>もえぎ</u> 小学校 PTA [↩]
19 [↩]	相武台中学校 PTA [↩]